

2021年度（2022年3月期）第3四半期決算発表説明会

Q&A

Q1：電力セグメント利益における、対前年▲32億円、対前回見通し▲80億円については、JEPX価格高騰が主な要因であるのか。また、その他の要因があれば教えて欲しい。

A1：対前年▲32億円については、小売件数増加に伴いJEPX調達量が増加するなか、3QにおいてJEPX価格が高騰したことに加え、都市ガスと同様にスライド影響が悪化したことも減益要因である。対前回見通し▲80億円については、対前年と同様に、JEPX価格の高騰が主な減益要因である。

Q2：「キャッシュ・フローの使途」の投融資について、前回見通しから大幅に減少しているが、特定の案件が無くなった等、具体的な内容を教えてほしい。

A2：成長投資である海外投資・再エネ投資については、前年度の大規模投資（北米再エネ等）を踏まえ、今年度も一定程度の投融資の発生を想定していたが、投資効率等を踏まえた投資評価の結果、今年度中に執行されないことが確認されたため減少したものである。なお、中期経営計画における投資規模について変更はない。

Q3：中期経営計画の最終年度目標である1,400億円達成に向けて、2Q決算時においては、一定の確度で目指せるという説明があったが、3Q見通しにおける実力利益を踏まえ、経営層としては目標を達成できると手ごたえを感じているのか教えてほしい。

A3：セグメント利益見通し1,099億円に加え、一過的な利益減（P16）約60億円を補正した約1,200億円が現時点の稼ぐ力と考えている。中計最終年度の次年度に向けて、利益を上積みできるか議論を重ねている最中であり、経営層としても1,400億円はチャレンジ可能な数値だと考えている。

以上